科目名	Tokyo P-TECH特別講座							年度	2026
英語科目名	Tokyo P-TECH Special Lecture							学期	通年
学科・学年	ネットワークセキュリティ科 1年次	必／選	選P	時間数	60	単位数	4	種別※	講義+演習
担当教員	Tokyo P-TECH関係者、大矢	教員の実務経験		有	実務経験の職種		IT関連職種		

【科目の目的】

最新技術動向を業界のプロフェッショナルから聴講し、見識を広めることを目的とする。今後必要とされる人材は、知的好奇心を持ち、興味を持った事柄についてはその深層まで探究することができる人間である。本特別講義では、Tokyo P-TECH関係者らによる知的好奇心および探求心を刺激するとともに、他者との協働関係または競合関係から想像力、発想力を養う。

【科目の概要】

本講義はTokyo P-TECH関係者による講義で、事前調査・聴講・聴講結果報告の3ユニットで１セットとする。聴講内容の理解をより深めるため、事前調査を必ず行うことを重視する。また授業時間外での主体的な予習も奨励する。知識定着のため、聴講しただけで終わらず、必ず聴講結果レポートも作成する。外的環境との関わりにおけるビジネススキルの向上を意識する。なおプロジェクトは期間中に複数回、取り組む計画である。

【到達目標】

本講義を聴講することで、最新技術動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会、カンファレンス等に参加するようになることを目標とする。さらに、就職活動をする上で学生自らの目指す業界人材像を定めることができるようにする。聴講レポート作成を通して文章作成能力を向上させ、情報を整理して発表するための論理的思考力を養うことを目標とする。

【授業の注意点】

本講義では学生が主体的に学習する姿勢を重視する。具体的には事前調査の精度、外部講師への積極的な質問、関わりを評価する。聴講後のレポートには、聴講内容を羅列するだけではなく、自らの考えや新たに学習した事柄について調査した結果等を記載することを求める。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。ただし、授業時数の４分の３以上出席しない者は成績評価することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている		レベル３ ふつう		レベル１ 要努力
到達目標 A	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的に勉強会に継続的に参加している		最新技術動向に関心を持ち、勉強会に参加したことがある		最新技術動向に関心を持たず、主体的に勉強会に参加したことがない
到達目標 B	最新技術動向に深く関心を持ち、主体的にカンファレンスに継続的に参加している		最新技術動向に関心を持ち、カンファレンスに参加したことがある		最新技術動向に関心を持たず、主体的にカンファレンスに参加したことがない
到達目標 C	就職活動をする上で自らの目指す業界、人材像を定めることができる		就職活動をする上で自らの目指す業界を定めることができる		就職活動をする上で自らの目指す業界、人材像を定めることができない
到達目標 D					
到達目標 E					

【教科書】

毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、講義毎に指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

レポート ・課題 60% 授業内容の理解度を確認するために実施する
成果発表（口頭・実技） 40% 授業時間内に行われる発表内容について評価する

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	Tokyo P-TECH特別講座	年度	2026
英語表記	Tokyo P-TECH Special Lecture	学期	通年

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	事前調査	聴講テーマにそった事前知識を調査し、情報を整理することができる	1	調査方法	必要な情報を得るための調査方法を身に着ける	3	
			2	事前調査	聴講テーマに沿った事前知識を習得する		
2	事前調査報告	事前調査によって整理した情報を他者と共有するために説明、発表することができる	1	発表方法	調査した情報を整理しまとめる力を身に着ける	3	
			2	調査報告	事前調査した情報を他者に効果的に説明/発表できる		
3	聴講	知的好奇心をもって聴講し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる	1	聴講方法	聴講するときの態度について理解する	3	
			2	聴講	聴講テーマに関する知識を習得する		
4	聴講結果報告	聴講内容を振り返り、新たな知識を定着させることができる	1	報告作成方法	聴講した情報を整理しまとめる力を身に着ける	3	
			2	聴講報告作成	聴講テーマについて体系的に整理し知識を定着させる		
5	聴講結果報告・まとめ 結果報告	自ら調査した事柄を他者と共有するために、情報を整理して説明することができる	1	報告方法	他者との情報共有の方法を理解する	3	
			2	聴講報告	聴講した情報を他者に効果的に説明、発表できる		
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等